

# 令和5年度 校内研修計画案

## 研究主題

### 読み取る力と伝える力を高める指導の工夫

～子どもが主体的に学び合う、対話のある授業づくりを通して～

#### 1 主題設定の理由

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことで学習内容を深く理解し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身に付けることを目指している。また、各教科で「見方・考え方」を働かせて学ぶことで、資質・能力が育まれ、深い学びにつなげていくことが重要であることが示されている。

本校の学校教育目標は、『ふれあいの中でよりよく生き抜く児童の育成』～豊かななかかわりと豊かな学びを通じて～である。「ふれあいの中でよりよく生き抜く子ども」とは、よりよい生活をしていくために、他者との関わりの中で、自分の考えをもち、判断し、行動できる子どもであると考え。そのためには、他者と意思疎通を図り、新たな見方や考え方に気づき、思考を広げ、子ども自身が諸問題を解決する力をつけていくことが重要となる。

本校は少人数の単学級のため、大勢の場で話したり、学習内容にこだわりをもって説明したりする活動を進んで行う児童が固定化されやすい傾向にある。そのため、例えば、決まった挨拶や形式的な返答はできるが、相手の話を受けて自分の考えをつなげる話し方がうまくできない児童が多い。また、根拠をもって話したり、あるいは説得する話し方をしたりする経験も少なく、話し合いが深まっていらず、結果として高め合いまでに至らないといった課題がある。また、RSTの結果、学校全体として読解力の中でも「推論」「具体的同定」の分野が比較的正答率が低い傾向にあり、文章や資料の意味や根拠を問うことや、既習事項の活用、友達の考えとの比較等の場면을授業の中に仕組んでいく必要性があると考えた。

そこで、本年度は昨年度までの研究を土台として、児童の学びに向かう意欲を高めることで「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」といった思いを喚起し、児童自身が伝え合うことを楽しみながら課題追究していく学びを工夫し、読み取る力と伝える力を高めていきたい。そのために、児童の主体的な学び合いや、対話力の向上を意識した授業づくりと日々の指導を実践していく。

#### 2 研究におけるめざす児童像

- (1) 疑問や探究心・わかる喜びを感じ、それを生かして学びを深める子
- (2) 児童相互及び教師等と対話を図り、相手の考えを大切にしていける子
- (3) 学びの見通しをもち、学習を日常生活につなげていく子

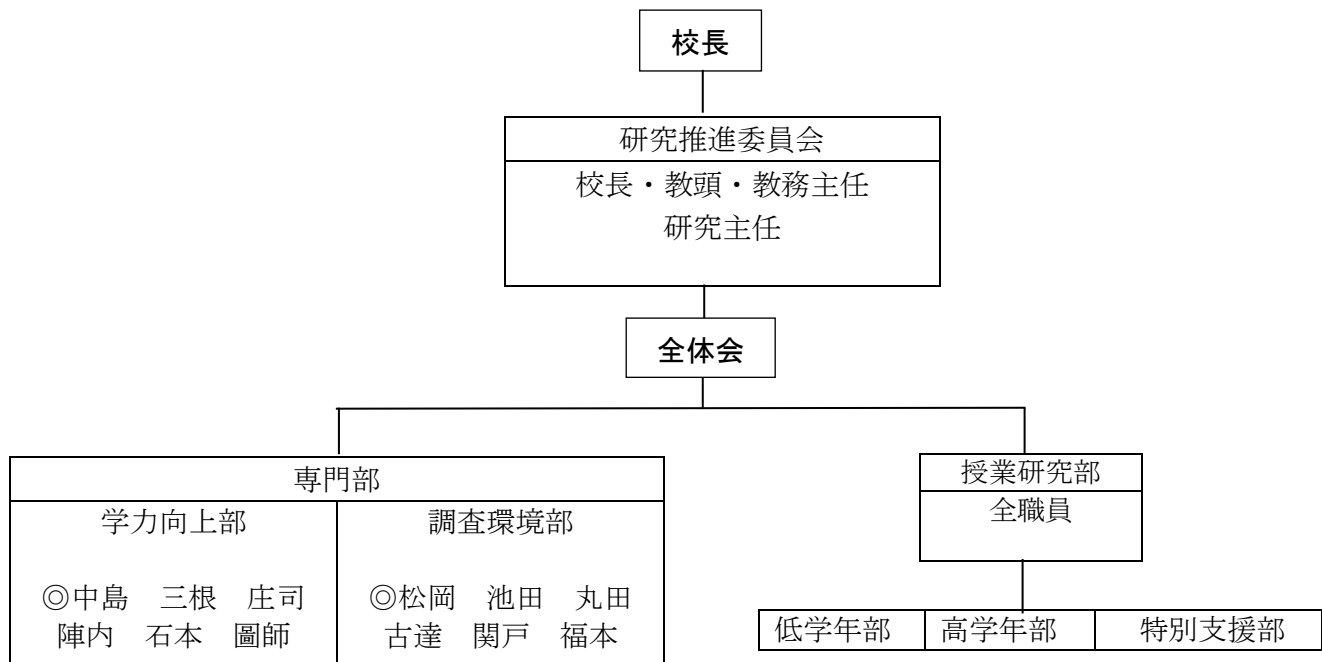
#### 3 研究仮説

日々の活動において、子どもが楽しさを感じ、主体的に学びたいと思えるような学習活動を仕組み、伝え合いの場面を充実させていけば、読解力・対話力の伸長を図り、学力が向上するであろう。

- 子どもが楽しさを感じ、主体的に学びたいと思えるような学習活動とは
  - ・ 子どもが自ら考え、自ら実践することを促す学びの価値付けのできた活動
  - ・ 学びの見通しをもたせ、ゴールが明確にされた活動 等
- 伝え合いの場面を充実させるとは
  - ・ 授業における対話の視点の明確化と学習形態の工夫
  - ・ スキルタイムにおける計画的な伝え合いの時間の設定
  - ・ 朝の会、帰りの会、学級活動、学校行事等において、伝え合いの時間の機会を設定

等

#### 4 研究組織



#### 5 研究内容

##### (1) 読み取る力と伝える力を高める授業づくり

- ・めあてとまとめが明確に位置づけられ、学ぶ意欲が持続する授業
- ・本時のゴールに有効に働く、伝え合いの場面が位置づけられた授業
- ・読解力の視点を意識した、教師の関わりが見られる授業
- ・低・高学年・特別支援の3部会を設ける。
- ・全職員が研究授業を実施し、各部から1本ずつの全体授業を行う。その他は部会授業とする。但し特別支援学級は、現職教育で、自立活動や日常生活の指導の紹介、特別支援教育についての研修を実施することも可とする。
- ・教科は絞らない。全体・部会とも指導案は全員に配付する。

##### (2) 学力の向上に向けて

- ・RSテストの結果をふまえた、高めたい力に対する取組  
⇒根拠を明らかにして自分の考えを述べることや語彙力・漢字力・構文力などを高める国語辞典の活用など
- ・スキルタイムの有効活用
- ・学力調査(4月・1月)実施・結果の検証・改善策の実施
- ・定期評価のためのチェックリスト作成(PDCAサイクル)  
⇒1月のテストで4月の結果を上回り、全国平均を超えることを目指す。

##### (3) 学びの基礎力の確立に向けて

- ・「家庭学習がんばりカード」などによる学びの習慣化を図る手立ての検討  
⇒自分に必要な学びを自分で決め実践できる子に
- ・RSテストの分析結果の活用(前年度の結果をもとに推進し、1月に再テストを実施・考察)
- ・「学習の5つの約束(チャイム着席・挨拶・聴き方・姿勢・返事)」の徹底
- ・「聞く力、話す力のレベル表」の活用
- ・「学年みやっ子のまなび」(下敷き表側)の配付

##### (4) 学習環境の整備

- ・話し合い活動を成立させる支持的風土の醸成
- ・「学力向上掲示板」の活用・・・言葉に着目した、学びのある掲示物作成
- ・ICT機器の活用法研修

## 6 年間計画

| 月  | 日  | 曜 | 内 容                                      |
|----|----|---|------------------------------------------|
| 4  | 7  | 金 | 全体会「校内研修全体計画」「専門部担当決定」<br>各授業研究部で全体授業者決定 |
|    | 13 | 木 | 専門部活動「今年度の取組についての検討・計画」                  |
| 5  | 25 | 木 | 各学級の学力実態把握及び今後の取組について                    |
| 6  | 8  | 木 | 専門部活動<br>指導案の形式について                      |
|    | 23 | 金 | 専門部活動                                    |
| 7  | 5  | 木 | 提案授業？                                    |
|    | 24 | 月 | 学力調査分析                                   |
| 8  | 9  | 水 | 現職教育等<br>指導案作成・検討＜部会＞                    |
|    | 21 | 月 | 現職教育・出張・自主研修報告会等<br>指導案作成・検討＜部会＞         |
| 9  | 21 | 木 | 研究授業①                                    |
| 10 | 19 | 木 | 指導案作成・検討                                 |
|    | 26 | 木 | 研究授業②                                    |
| 11 | 16 | 水 | 指導案作成・検討                                 |
|    | 30 | 木 | 研究授業③                                    |
| 12 | 14 | 木 | 年度末に向けての研修計画・研究のまとめ方提案                   |
|    | 25 | 月 | 今年度の振り返り（専門部）                            |
| 1  | 9  | 火 | 今年度の振り返り（全体）                             |
|    | 25 | 木 | 研究のまとめ                                   |
| 2  | 22 | 木 | 学力テスト考察 校内研修アンケート記入                      |
| 3  | 1  | 金 | 今年度の反省・次年度へ向けての方向性                       |

\*

研究授業枠の余りは、現職教育等に充てる。